

平成19年度みなぎる輸出活力誘発委託事業（日本産米の輸出促進）  
第3回検討委員会 議事概要

1. 日時：平成20年1月23日（水）13：30～16：30
2. 場所：農林水産省7F 総合食料局入札室B
3. 出席者  
櫻井 研 東京海洋大学 講師  
安藤 充 全国農業協同組合連合会 総合企画部輸出対策室 審査役  
高橋 徹 株式会社電通メディアビジネス推進局国際メディア部 ストラテジスト  
吉川 正晃 双日株式会社 食料部 食料第1課
4. 議事
  - (1) 台湾現地調査報告
  - (2) アメリカ調査現状報告（国内ヒアリング）
  - (3) 課題と方向性（台湾：中間報告）
  - (4) 次回の検討方針について
  - (5) その他
5. 議事概要
  - (1) 台湾現地調査報告
    - ・ 日本産米の輸出量を増やすことと輸出により生産者を元気付けること、時に相反する二つの目的に対し、どのように対応するかが重要である。
    - ・ J Aライスのパッケージには、日本産米の炊飯に適したミネラルウォーター（ボルヴィック）の使用を推奨する説明文を現地語で掲載し、軟水での炊飯を推奨している。
    - ・ 日本産米と他国産米の価格差を合理的に説明することは非常に難しい。正しい炊飯方法をDVD等の媒体で紹介し、現地の方に日本産米の本当の美味しさを分かってもらった上で価格差を納得してもらう必要がある。
    - ・ 日本産米を定番化し、現地に定着させることが重要である。定番化の量的目安としては、輸入業者の立場からすれば、消費期限の関係で3ヶ月に1回程度での定期的な輸出が必要とのことであった。
    - ・ 日本産米と台湾産米の価格比較表に、アメリカ産米も加えていただきたい。
  - (2) アメリカ調査現状報告（国内ヒアリング）
    - ・ 商品の背景やストーリーとセットで販売することが必要であるという指摘は、米国だけでなく日本産米の輸出一般に対して有効である。日本産米と異なる商品とのセット販売を考える際にもヒントになるであろう。
    - ・ 以前、全中が日本産米を使った料理コンテストを開催し、大々的にPRしたが、結局販売量が伸びず撤退を余儀なくされた例もある。アメリカにおいて

日本産米の販売で利益を上げるのはなかなか難しい。

- ・ 東海岸はどちらかと言えばヨーロッパを向いており、西海岸の方が文化的にも親日的である。貿易ルートからしても西海岸の方が日本からの利便性が高く、日本産米の輸出対象地域としては適している。
- ・ 近年、アメリカ産日本米の品質が非常に高くなっており、米国内のシェアをみても中粒種のカルローズにとって変わりつつある。
- ・ アメリカ向けに大量に日本産米を輸出することは難しい。農家の方に活力を与えるという位置づけが適しているのではないか。
- ・ 無菌パックについては、炊飯器を持たないアメリカ人にも向いており、またかさばらないため輸送にも適した商品形態といえ、加工食品扱いとなるため通関においても手続が容易であり、将来的に伸びていくのではないか。

### (3) 課題と方向性（台湾：中間報告）

- ・ コスト削減は重要だが、産地間連携を軸にすると議論もあるところである。
- ・ 現実的には各県同士は競合関係にあり、主張や利用業者等も異なる。また新潟県産や魚沼産といった有名産地以外は、産地によるコメの違いが消費者側に認知されていない状況で、そもそも産地を売りにすることにも限界がある。
- ・ 前回検討した「広報戦略（素案）」と今回発表した「課題と方向性」でとりあげているセグメントやターゲットについて、整理していただきたい。
- ・ 消費者層の区分とターゲットとして挙げられているセグメントは妥当である。今後の販売量の予測、プロモーションコストの算定等を考えると、それぞれの層のボリュームがどの程度であるかを想定することが必要である。
- ・ 共同物流体制を構築することは重要であるが、あまりに輸出量が多いと逆に店舗間での価格競争がおきることになる。どの程度の数値を目標にすればよいか、適当な目標値を定める必要がある。

### (4) 次回の検討方針について

- ・ 輸出実行プラン構成案は、オーソドックスな構成で問題はないが、読み手となる産地の方々を意識して、見せ方を検討していただきたい。
- ・ マーケティング調査における商品分析を意識して、日本産米の特徴を整理して記述するとよいのではないか。
- ・ 日本産米においては、産地や品種の要素が重要なファクターだが、ヘルシー元氣米の「健康」のような新たな切り口により突破できる可能性も追求する必要があるのではないか。

### (5) その他

- ・ 今後は上海現地調査が予定されており、その調査結果を踏まえ次回には輸出実行プランがまとめられる予定である。

以上